

新評論

2019
3・4
No.292

発行所 © 新評論 2019年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜



宿題が苦役のままでいいはずはない！(本書挿絵より)

シュクダイと聞いただけで落ち込む…そんな思い出にさよなら！
教師も子どもも笑顔になる宿題で、学びの意味をとりもどそう

宿題をハックする

学校外でも学びを促進する10の方法

スター・サックシュタイン+コニー・ハミルトン

高瀬裕人・吉田新一郎 訳

◆ジャンル:教育

「宿題」という言葉を聞いて、あなたはどんなことを思い出しますか？ 楽しい思い出はありますか？ それとも、意味をみいだせない「苦役」をやらされた、本という記憶のほうが多いでしょうか。本書には、ワクワク感にあふれ、子どもたちも自分の意志で継続的に（なかには二年間も続けた子がいます！）取り組み続けたくなるような宿題（家庭学習）の実例がたくさん紹介されています。

日本では、学校や教師が宿題を出すのが当たり前とみなされていますよね。子どもたちだけでなく、多くのばあい親や保護者も当然視してしまっているのです。宿題の是非を問う議論なんて、事実上存在しません。ところが欧米では、宿題論争が華々しく展開し続けているのです。つまり、宿題は大きな問題を抱えているという事です！ それらの論争本や事例集をいくつも検討してみた結果、そのなかでもっともおすすめた本を選んで訳すことにしました。

著者の一人は、「小学校に通う子どもが、テスト対策のためだけに、意味があるとは思えない問題集やプリントでカバンをいっぱいにして帰宅するほどばかげたことはない」と言い切っています。さらに著者たちはこう指摘します。

「宿題（家庭学習）」は、教育においても誤用されているツールです。あまりにもたくさんの方々が、宿題という枠組みのなかに詰め込まれています。生活に直結しない宿題を出すのは、生徒の時間の希少性だけでなく、学ぶことの価値までも軽んじることになるのです。本書は、教師、保護者、そして生徒に對して、「宿題はもういらない」というメッセージを伝えるために書かれたわけでありません。宿題に対する伝統的な見方を改め、私たちが生徒だったときに経験したもののより、はるかにエキサイティングで、意味のある宿題（家庭学習）を出しましょうという呼びかけなのです。みなさんもぜひ、本書で宿題のとりえ方を刷新していただき、出す方もやる方も楽しくなるような宿題をつくってみてください。（よしだ・しんいちろう）

ISBN978-4-7948-1122-6 4月中旬刊
四六並製 予三〇四頁 予二四〇〇円

成績をハックする

（評価を学びにいかす10の方法） 二〇〇〇円

最高の授業

（スバイダー討論が教室を変える）

A・ウィギンズ／吉田新一郎訳 二五〇〇円

好評刊

たった一つを変えるだけ

（クラスも教師も自立する「質問づくり」）
D・ロス・スティーヴン・サンタナ／吉田新一郎訳 二四〇〇円

著者 Starr SACKSTEIN 中高生に英語とジャーナリズムを教えた後、ニューヨーク市郊外で教育委員会指導課長を務める。邦訳既刊に『成績をハックする』がある。 Connie HAMILTON サックシュタインと同じ教育委員会でカリキュラム・ディレクターを務める。



太田の代表作の一つ「樹霊(きたま)」

「旋盤の魔術師」と呼ばれた天才クラフトマンの生涯と仕事。
現役作家達の証言を通じてその驚異と感動の世界が花開く!

手のひらの小さな愛

大雪山の森から誕生した伝説のオブジェ

川嶋康男

◆ジャンル:クラフト/デザイン/工芸

「このまま忘れ去られてしまう人ではない。いつか必ず再評価される日が来る」と思っていました——太田久幸についてこう語るのは、北海道上川郡東川町でギャラリー「コタン・クル・カムイ」を経営しつつ、自ら木工作家として活躍する藤田祥である。このときの出会いがきっかけで、私たちも太田の作品に魅了され、本書で彼の仕事の奥深さを広く世に問うことになった。

本書の主人公・太田久幸（一九四〇—二〇〇二）は、東川町に住み、抜群のデザイン力で「木の仲間たち」を世に送り出したクラフトマンである。「旋盤の魔術師」と呼ばれ、天才的とも言える旋盤技術とデザインの融合によって、独自のファンタジー・オブジェで全国のクラフト業界を席巻した。この人物の現役時代を蘇らせるため、本書の筆者は現在旭川エリアで活躍しているクラフトマンたちにインタビューを敢行した。

多くの証言から得られたエピソードの数々、そのどれもが驚きと感動を呼びおこさずにはいない。作品を観ただけでは分からない職人の世界、活字でどこまで

表せるかはさておき、「未知なる世界」への入り口になることだけは請け合いた。「そこまで考えていたのか」「そこまでやっていったのか」など、クラフト作品の制作現場の裏側を知ること、消費者・鑑賞者の興味を必ずや高めることになるはずだ。

本書では、太田が遺した数々の作品をカラー写真をまじえて紹介するが、言うまでもなくそれは実物を観たときの感動には及ばない。ぜひ東川町を実地に訪れ、藤田氏の「コタン・クル・カムイ」などで太田の作品をじかに観て、感動を味わっていたきたい。その際、インタビューにに応じてくれた現役クラフトマンたちのギャラリーにも足を運び、太田の作品とはまたひと味違う感動を体験してもらえたら嬉しい。「写真の町」として有名な東川町だが、いまや「木工の町」と呼ぶたい気持ちだ。（編集部）

ISBN978-4-7948-1121-9

3月下旬刊

四六並製 一二〇頁＋カラー口絵八頁

予一六〇〇円

好評刊
100年に一人の椅子職人

（長原寛とカンディハウスのデザイン・スピリッツ）
川嶋康男 編著

二五〇〇円

著者 札幌在住のノンフィクション作家。主な著書に『永訣の朝』（河出書房新社）、『いのちの代償』（ポプラ社）、『100年に一人の椅子職人』（新評論）など。『大きな手大きな愛』（農文協）で第56回産経児童出版文化賞JR賞受賞。



筑後川下流にかかる昇開橋。1935年、国鉄佐賀線の鉄橋として建設されたもので、廃線後は歩道橋として活用されている(重要文化財・機械遺産に指定)。

屋根のない博物館へようこそ!全流域を見て、歩いて、体験できる
壮大な野外エコミュージアムの魅力を伝える初のガイドブック。

筑後川まるごと博物館

歩いて知る、自然・歴史・文化の一四三キロメートル

筑後川まるごと博物館運営委員会 編

◆ジャンル:筑後川の自然・文化・歴史・紀行

阿蘇山に発し、熊本から大分、福岡、佐賀を貫いて有明海に注ぐ九州最大の河川・筑後川。流路延長一四三キロ、流域面積約二八六〇平方キロに及ぶその流域で、いまユニークな試みが展開している。久留米大学やNPO法人筑後川流域連携倶楽部など産官学民が連携し、流域を一体的にとらえ、持続可能で質の高い地域生活の実現に向けてさまざまな事業や活動を行うもので、その全体を「筑後川プロジェクト」と総称している。環境保全、文化の保護育成と継承、社会的連携などを総合的に推進するこのプロジェクトの根底にある精神は、「遊び」と「学び」と「仕事」を分離することなく、それらの共存・一体化を通じて創造性を発揮することである。このうち「学び」の領域を担うのが、本書で紹介する「筑後川まるごと博物館」だ。

この博物館は、筑後川流域全体を「屋根のない博物館」とみなすエコミュージアムである。流域に暮らす人々の生活、自然、社会のなりたちや歴史を調査し、自然・文化・産業遺産などを保存・育成・展示している。従来型の博物館とは異なり、自然や地域にじかに触れ、体験できるのが最大の特色だ。

運営は学芸員からなる運営委員会を中心として、流域の民間団体、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、一般社団法人北部九州河川利用協会との連携のもとで行われている。さらに久留米大学で公開講義「筑後川流域社会経済論」を開講するなど、学芸員養成の役割も果たしている。

本書は、この博物館設立の経緯とその活動を詳しく紹介したものである。徐福渡来や邪馬台国などの古代史、交通・運輸の要衝としての近代史、上流域の自然と風土、江戸時代に築かれた水利施設・四大井堰にまつわる物語、有明海との関わり、下流の近代化遺産群等々、展示の特徴と魅力を丁寧に示した。読めば思わず流域を歩いてみたくなること請け合いだ。

ISBN978-4-7948-1120-2

3月下旬刊

A5並製 二七二頁十カラー口絵八頁

予二四〇〇円

好評刊

文化の時代の経済学入門

〔21世紀は文化が経済をリードする〕

駄田井正・浦川康弘

二二〇〇円

文化経済学と地域創造

〔環境・経済・文化の統合〕

駄田井正・藤田八輝 編著

二七〇〇円

NPO法人筑後川まるごと博物館 1999年発足。調査・展示のほか現地学習会や森林体験の実施など多彩な活動を行う。運営には本書の編者である運営委員会と、流域の民間団体、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、一般社団法人北部九州河川利用協会が携わる。



老舗酒造会社・月桂冠の企業博物館「大倉記念館」(京都市伏見区)

常に挑戦を忘れず命脈を保ってきた京都の老舗。東京、金沢、イタリア、中国との比較分析を通じてその歴史と現在に迫る!

京都からみた、 日本の老舗、世界の老舗

松岡憲司 編著

◆ジャンル:地域産業・地域経済

京都の町は、今日も相変わらず国内外からの観光客で溢れかえっている。訪れる人々が感じる京都の魅力、それは何よりも、神社・仏閣、祭りや伝統工芸品に体现されているような、歴史に裏打ちされつつ今に生き続ける文化であろう。京都市民へのアンケート調査で、「京都が世界に誇るもの」を尋ねたところ、神社・仏閣や伝統工芸に次いで「老舗」を挙げた人が約半数にのぼった。また、「京都にとって老舗は必要か」という問いには、九割近い人が「必要」と答える一方で、老舗に対するイメージを尋ねられると六割強の人が「保守的」と回答した。長い歴史を有する老舗は、常に何かしら新しいことに挑んできたわけだが(だからこそ生き延びられた)、このアンケートで「革新的」と答えた人は約三分の一にとどまった。筆者たちは、二〇一〇年から京都の老舗における伝統と革新についての調査研究を重ねてきた。そのなかで、二〇一一年と二〇一六年に「京都の老舗による革新」をテーマとするアンケート調査を実施した。その結果、現在の老舗が革新に積極的であるかどうかは、先代以前の革新に対する姿勢、いわば「社風」に影響されることが明らかとなった。そこから

さらに、革新への姿勢、企業規模、経営状況によって老舗企業を六つのタイプに類型化した。一概に京都の老舗と言っても、代々革新に熱心な老舗もあれば、規模が零細で業績も芳しくなく、革新には消極的で、近い将来には廃業も懸念される企業もあった。

なお本書では、京都の老舗の特徴を示すために東京、金沢、イタリア、中国の老舗との比較も行っている。創業年代は国内外を問わず一八〇〇年代が多く、工芸や酒造などが代表的な業種となっている。こうした国際比較をもふまえて、老舗と呼ばれる企業の歴史と現在をつまびらかにすることで、日本の地域産業・地域経済の今後を考える上での参考材料を提供できれば幸いである。

(まつおか・けんじ)

ISBN978-4-7948-1119-6 3月下旬刊

A5上製 三〇四頁 予二八〇〇円

事業承継と地域産業の発展

〔京都老舗企業の伝統と革新〕
松岡憲司 編著 二八〇〇円

地域産業とネットワーク

〔京都府北部を中心として〕
松岡憲司 編著 二八〇〇円

人口減少化における地域経済の再生

〔京都・滋賀・徳島に見る取り組み〕
松岡憲司 編著 二八〇〇円

編者 香川大学経済学部卒、神戸大学大学院修了。博士(経済学)。現在、龍谷大学経済学部教授、龍谷大学長寿ファミリー企業研究センター研究員。編著に『事業承継と地域産業の発展』『人口減少化における地域経済の再生』『地域産業とネットワーク』など。

教科書では学べない 数学的思考

J・メイソン / K・ステイスイー 他 / 吉田新一郎訳

「ウーン」と「アハ」から学ぶ
算数・数学がいかにこの一冊で解消！
読めばあなたも論理的思考の達人。

四六並製 三二四頁 二四〇〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1117-2



オープニングマインド

P・ジョンストン / 吉田新一郎訳

「子どもの心をひらく授業」選ぶ
言葉で授業が変わる！教育観・社会
観・人間観を刷新する画期的授業法。

四六並製 三四八頁 二五〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1114-1



写真記録・三島由紀夫が書かなかった 近江絹糸人権争議

本田一成

「絹とクミアイ」日本を震撼させた
熾烈な労働争議の全貌を二〇〇点超
の写真で再現！歴史的闘争が今甦る。

A5並製 二五六頁 二四〇〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1118-9



梅根悟

中野光

「その生涯として」と「梅根の前に梅
根なし、梅根の後にも梅根なし」と言
われた教育界の巨人の決定版評伝！

四六並製 二四四頁 二二〇〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1116-5



議論と翻訳

桑田禮彰

「明治維新期における知的環境の構築」
現在の危機の本源は議論の劣化
にある。議論環境の再構築へ！

四六並製 五八〇頁 四八〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1110-3



黙示のエチュード

マニエル・ヤン

「歴史的理性の復活のために」
世界各地の抵抗の営みを巨大な
射程で見つめ、「3・11」後の黙示的
日常を生き抜く民衆の力を析出。

歴史社会学の異才、待望の単著！

ISBN978-4-7948-1113-4 近刊

四六上製 三三六頁 予三〇〇〇円

著者 Manuel YAN 日本女子大学人間
社会学部現代社会学科教員。専門は歴史
社会学、民衆史。アメリカと環太平洋／
大西洋の歴史を階級闘争の観点から研究。

メイド・イン・ トーキョー

関満博

「墨田区モノづくり中小企業の未来」
製造業から伝統工芸まで103事業所
訪問、空前絶後の墨田区産業大全！

A5上製 五八四頁 八〇〇〇円

最新刊

ISBN978-4-7948-1115-8



リングトーン

塩田良平

「未来からのメッセージ」過去は未
来を開く扉——リアルな設定で人類
とAIの関わりを問う近未来小説。

四六並製 二八八頁 一八〇〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1112-7



人見廣史『書店人のはんせい——本はエンターテインメント』

伝えるという人と、知るという人と

■『印刷新報』BOOKリーダー／2018年11月8日

著者の人見氏は都内の書店に40年以上勤め、2016年4月に退職された。この本は著者がその読書遍歴をたどりながら書店人としての「半生」を振り返るものだ。

40年以上勤めあげた書店人の読書量と守備範囲は、かなりのものだ。おそらく、本書で紹介された本は著者の読書量のほんの一部だと思われる。同じく、本好きを自負するものとしては、最敬礼せざるを得ない。

そして、こう思う。

書店の楽しみとは著者のような書店人によって支えられていたのだろう、と。

著者のような書店人が引退するとともに、書店の楽しみがまた一つ消えてゆく……そんな気にさせられる。

著者は「本を読むことの楽しさ、

本の世界で得られる幸福感、本によって知らない世界を体験できるという面白さなどを多くの人に伝えたいと思って」本書を著した（はじめに）、以下引用はすべて同書から。

しかし、ただの紹介本にならないよう「机に向かって読書をするだけでなく、読んだ本に影響されてその現場に行った時のことや、本をつくっている出版社、そして印刷屋や製本会社のことや書いていくことにした」と続ける。

そして、こう振り返る。

「情けないことに本の制作現場を見たことで『反省』という文字が頭の中に浮かびあがってきた。（中略）これまでその過程を意識したことがなかったのだ」

実際、エピソードには、版元となる新評論（東京都新宿区）の武

市一幸社長に連れられて、本書を印刷した理想社（田中宏明社長、東京都新宿区）と製本した中永製本所（田中一紀社長、さいたま市岩槻区）を訪問、見聞きしたことが自身の手によって記されている。その訪問の顛末はぜひ、本書を手にとって確認いただきたい。

今回、理想社の田中社長のご協力により、武市社長に話を聞く機会を作っていただいた。

武市社長は本書について、「著者も組版から印刷、製本まで知らなければ正しい本の文化が守れない。適正金額の問題もそうだが、校正や組版のルールもわからない著者や出版社が増えている。印刷会社や製本会社も『職人魂』でもっと声を上げてほしい。言わなければ変わらない」と、その思いを語ってくれた。

少し長くなるが、最後にエピソードからこの一文をお借りして締めくくりたい。

「出版業界は製紙会社、印刷会社、製本会社、製函会社などの存在があつて成り立っている。というより、実際に本をつくって流通しているのはこれらの会社なのだ。その現場や現状を知らないで『敵は内にあり』に対する問題解決案も生まれてこない。

『駕籠に乗る人、担ぐ人』そのまた草鞋を作る人』ではないが、一冊の本を支えているすべての人びとが協力しなければならぬ。

書店人のはんせい

人見廣史

「本はエンターテインメント」「半生」か、「反省」か——40年余を書店人として過ごした「本好き」が綴る読書の愉楽。四六並製 二五六頁 二〇〇〇円

「毎日新聞」他紹介
ISBN978-4-7948-1101-1



「半生」か、それとも「反省」か
三浦しをん氏に感謝！
40年余を書店人として過ごした「本好き」が綴る読書の愉楽

本を売る

商品力×熱意＝販売数

東京の本社から岡山に異動して1年あまりが経過し、少し慣れてきたところです。本社にいた頃は、仕入・配本やシステム開発・運用などに従事し、銘柄ごとの需要予測、商品特性の研究をしつつ、増売施策の立案・実施等の仕事もしていました。当時、過去の実績を分析した上で、銘柄ごとの需要を予測し、実際に供給をコントロールすると、大体想定通りの結果になり、効率的に販売できることが多かったと記憶しています。

しかし、岡山に来て営業の現場に出ることとなり、実際に本を売る書店の方々とお話するにつれ、分析と現実には少し違うことがわかってきました。確かに、全体的な分析は大きく間違っていないのですが、単店レベルで見ると違います。例えば、全国レベルで見るともう売れ行きが止まっている商品でも、書店様が独自に仕掛けて販売し、売り伸ばし続けているケースも多く見られます。

中国四国エリアでは昨年7月に西日本豪雨の被害があり、多くの書店様が被災しました。岡山でも倉敷市を中心に被害が多く出ました。その中のある書店様が、山陽

新聞社から昨年8月に刊行された『西日本豪雨写真集』にいち早く着目し、3ヶ月で数千冊を販売されました。これは市内他店の数倍以上にもあたります。その書店様は、重版出来次第、社長自ら1時間かけて何度も弊社岡山支店まで取りに来られるほど注力し、店頭でも「がんばろう真備」と書かれたPOPを添えて最前列で販売されていました。「うちはこの商品をお勧めしている、買って欲しい」という「熱意」がお客様にもはつきりと伝わり、確実に売上に繋がったのだと思います。もし普通に陳列していたら、販売数は半分以上だったのではと推察されます。

個々の本が持つ「商品力」ももちろん重要ですが、それに書店様の「熱意」が加わることで、相乗効果で何倍も売れることがあります。出版不況と言われ続けていますが、まだまだ売れる可能性はあると考えています。私自身も、書店様ごとに「熱意」をもって販売したいと思っただけでなく、商品を紹介する努力が足りなかったことを反省しつつ、今後は書店様ご自身が売りたいと思う商品をもっと発掘・紹介することを使命として、「熱意」を持って邁進してまいります。

トーハン岡山支店 吉武史比呂

本誌表示価格はすべて税抜です。

書評日誌(12・22～1・6)

●書評 ●紹介 ●関連記事

- 12/22 ●北國新聞『野球母ちゃん』
 12・23 ●信濃毎日新聞、下野新聞『野球母ちゃん』
 12・29 ●朝日新聞『不屈しない人々』西崎文子(書評委員が選ぶ「今年の3点」)
 12・30 ●長崎新聞『野球母ちゃん』
 12月号 ●歌壇『ユーカラ邂逅』(時田則雄)
 ●短歌往来『ユーカラ邂逅』(江田浩司)
 ●VOICE(河合塾)『南国港町おばちゃん信金』
 ●保育通信『スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用』(新島一彦)
 ●鹿首『ユーカラ邂逅』(岡和田晃)
 12/上 ●出版ニュース『不屈しない人々』
 12/中 ●出版ニュース『乙女たちが

- 愛した抒情画家 落谷虹児』
 12/下 ●出版ニュース『オランダ公共図書館の挑戦』
 1・6 ●日本農業新聞『農工調和の地方田園都市』
 ●北海道新聞『新装合本 牙王物語』
 ●朝日新聞(静岡版)『野球母ちゃん』

野球母ちゃん

神川靖子/協力…池谷弘子

「そのパワー侮るなかれ」 野球少年を子にもつ母たちの泣き笑いの日々。感動・爆笑必至のドキュメンタリー! 四六並製 二四〇頁 一八〇〇円

「朝日新聞」他紹介
 ISBN978-4-7948-1108-0
 神川靖子
 そのパワー侮るなかれ
 感情 日々が幸せ
 2018年 全国高校野球選手権 100周年 新世紀に挑む母たちの奮闘!
 野球母ちゃん

本を読む

スウェーデンに学ぶ

ドキュメンテーションの活用

日本の保育は問題が多い。まず配置数（保育士一人当たりが担当する子どもの人数）が多すぎる。特に4、5歳児の30人は世界的にみても異常である。スウェーデンではこれが17、18人で、同国では「民主主義の基礎を定着させる」と

とが保育の目標の一つとされているという。そして一人ひとりの子どもを理解するために、まず子どもの言葉を聴きとる。子どもの発想から出発し、その実現を支えることが保育者の任務なのだ。日本の制度ではこのような保育は不可能だし、民主主義も育たない。関係各位には本書を日本の保育制度変革の手引書としてほしい。（京都市 社会福祉法人理事長 藤井修 70歳）

オープンングマインド

第8章「一緒に考え、力を合わせて取り組む」から読みました。子どもたちの何を見てきたのか、自分は自らのことばに責任を負っ

てきたのか、と反省しました。生徒の会話や対話をどう記録し、分析するかについて具体的な示唆を得ることができました。翻訳書ですが、その手法は日本でも有効です！

（名古屋市 教員 田中洋美 47歳）

新装合本 牙王物語

毎日新聞の書評を拝見し、すぐ購入しました。感動しきりです。北海道の大自然、そして主人公

「キバ」の感情の描写が精密で、他の文学作品にはないものを感じます。読んで良かったです。（大阪市 自営業 赤野裕史 56歳）

好評刊

屈服しない人々

T・トロフ／小野潮訳 二七〇〇円

スウェーデンに学ぶ

ドキュメンテーションの活用

（子どもから出発する保育実践） 白石淑江編著 二四〇〇円

新版合本 牙王物語

戸川幸夫著／田中豊美画／戸川久美解説 一八〇〇円

猫たちとニューヨーク散歩

（久下貴史作品集2） 三八〇〇円
画：久下貴史／文：ジャパン・アーティスト株式会社

編集部から

九州北部を網羅して流れる筑後川。239もの支流を従え、筑紫平野を潤し、水運の要として人々の暮らしを支えてきた。新刊『筑後川まるごと博物館』では、その全流域を野外エコミュージアムにしてしまおう。驚天動地の試みを詳説。ご注目のほど。世界初の野外博物館「スカンセン」に近代北欧スタイルの源流をみる『スウェーデン・デザインと福祉国家』も併せてどうぞ。▼3月2日、「林えいだい記念ありらん文庫資料室」（福岡市）が開館1周年を迎えた。折しも免疫学者の故・多田富雄氏が書いた新作品『望郷歌』のルーツが、えいだいさん著『死者への手紙』海底下炭鉱の朝鮮人鉱夫たち（明石書店）にあったことが判明したという。（室長・森川登美江さん談）。権力への怒りを共有していたお二人がもし生前会っていたら、と思わずにはいられない。『望郷歌』は今春再演される（4/20午後2時、於国立能楽堂）。

営業部から

- ▼直近3ヶ月のAmazonでの弊社書籍売上ベスト15をご紹介します。
- ① たった一つを変えるだけ
 - ② スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む
 - ③ 最高の授業
 - ④ 野球母ちゃん
 - ⑤ 成績をハックする
 - ⑥ 「学びの責任」は誰にあるのか
 - ⑦ 11の子どもの家
 - ⑧ ギヴアー 記憶を注ぐ者
 - ⑨ AO・推薦入試の黄本
 - ⑩ 虚構の「近代」
 - ⑪ スウェーデンに学ぶ
ドキュメンテーションの活用
 - ⑫ ギャザリング・ブルー
青を蒐める者
 - ⑬ メッセンジャー 緑の森の使者
 - ⑭ 書店人のはんせい
 - ⑮ 屈服しない人々

SBBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料！各種特典あり！お申し込みを！

当クラブ（一九九九年発足）は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。
入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくごとに、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。
ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。